

2020 教室・講座・イベントの成果報告

主催者名	はまぎん こども宇宙科学館・洋光台サイエンスクラブ			
題名・副題	トンボのヤジロベエと小鳥だるまを作ってバランス実験 ～自分の体の重心と移動を体感～			
月日・時間	7月5日(日) 10:00~12:00			
開催場所	はまぎん こども宇宙科学館 1階・会議室			
部会・講師名	自然環境部会 武澤研二	参加数	4名	講師数 5名
写真				
	透明仕切板、フェイスシールド、マスクで感染防御		クリップの錘を付けるとヤジロベエになりました	
				
	ワッシャー錘でたちまち起き上がり小法師になった		自分だけのトンボのヤジロベエを作りました	
成果解説	<p>新型コロナウイルス感染症防御として透明仕切板、フェイスシールド、マスクなどでの授業でした。この教室は、工作と歩くなど体を使う実験で重心の働きとバランスを学ぶ体験授業です。動物は日々生きるため、命を繋ぐため移動することや動物が暮らす多様な自然環境の大切さも考えます。始めに、参加者全員が実技で歩く時の重心移動を実感しました。2台の体重計に乗って体の重心を片側に寄せて体重値を変えることで、目で見て重心移動を確かめました。工作「トンボのヤジロベエ」では錘を付けてバランスを取り、羽の位置を工夫しながらヤジロベエにしました。工作「小鳥だるま」では、錘を付けると起き上がり小法師になり驚きとともに低重心のバランスを実感しました。いずれも、自由に色塗り切り出して組立てオリジナルの作品も制作し楽しく授業を進めました。動物は餌を探す、逃げる、巣に餌を運ぶなど、生きるため、命を繋ぐため、日々移動し、渡りをする。移動すること、そのために多様な環境が必要であること、「これからも、動物たちがくらしつづけるよう、自然環境をたいせつにしましょう」とメッセージを伝えました。地球温暖化は春の訪れを早め、生き物の繋がり(生態系)が崩れる恐れがあることを伝え、動物が棲む環境への影響もみんなで考えました。SDGs(持続可能な開発目標)関連の話も紹介しました。</p>			